

ヤマネ専用歩道橋

◀◀◀ 毎晩通ってます

樹上で暮らすヤマネが森の中の道路を安全に渡れるようにと、八ヶ岳のふもとの北杜市大泉町に、ヤマネ専用の橋が架けられている。8月10日に初めて通過が確認されて以降、毎晩使われている。関係者は、「保護のため、全国に広めたい」と意気込んでいる。
(一部地域既報)

北 交通事故防止へ 杜 10年かけて開発



夜中に橋を渡るヤマネ (キープ協会
キープやまねミュージアム提供)



設置されたヤマネのための橋―北杜市大泉町で

ヤマネは、手のひらに収まる大きさの哺乳類で、環境省の準絶滅危惧種に指定されている。北杜市では、財団法人キープ協会キープやまねミュージアムが保護を進めているが、生息地の森の中を横断する市道を渡ろうと木から下りてきて、車にひかれてしまうヤマネやリスなどの小動物が後を絶たなかった。

橋は、市道の8.5m上に架けられた。1辺25mの三角形のアルミの枠をワ

イヤでつなぎ、底の部分に金網をはった。やまねミュージアムと市、清水建設、大成建設が開発し、制作費約200万円で作した。

7月23日に設置しビテオで観察をしていたところ、8月9日にヒメネスミの通過を確認。そして翌日夜、ヤマネの通過が確認された。以降、毎晩複数のヤマネやヒメネスミが利用しているという。

もともと小動物の交通事故による被害を減らすと、約10年前から開発を始めた。小型化することになり、初めて造った橋より、制作費は10分の1にまで減らすことが出来たという。やまねミュージアムの館長湊秋作さん(55)は、「安上がりな上、小動物を保護できるという橋の効果は証明された。公共事業は減らすご時世だが、ぜひ全国の森に作って欲しい」と話している。設置などの問い合わせは、やまねミュージアム(05551・48・3577)へ。